

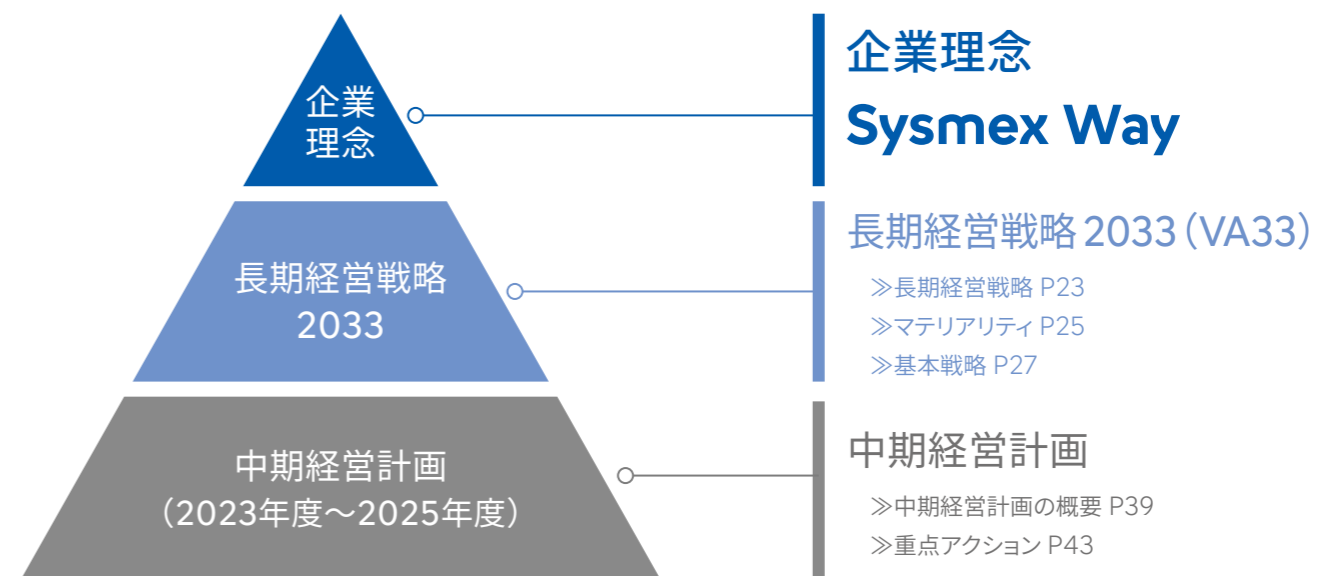


シスメックスの価値創造

拡大を続けるヘルスケア市場において、
新たな技術やイノベーションの創出を通じて、医療課題の解決に取り組むことで、
世界中の人々の健康寿命延伸へ貢献するとともに、持続的な成長を目指します。

企業理念の実現に向けた戦略と計画

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のもと、2033年を最終年度とする新たな長期経営戦略を策定しました。策定にあたって、マテリアリティ(優先する重要課題)を見直し、新たなビジョンと戦略、マテリアリティに一貫性のある戦略設計を行いました。さらに、新たな中期経営計画をスタートさせ、今後3年間の経営計画および重点アクションを設定しました。このような戦略および計画をもとに、シスメックスの持続的な成長と企業価値の向上を目指します。





代表取締役会長 グループCEO

家次恒

ヘルスケアの進化をデザインし、自らの変革を続けることで、健康寿命の延伸に貢献し、社会価値・企業価値の向上を図ります。

検査室、医療機関、そしてヘルスケアの進化をデザインする

2022年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）や地政学的リスクなどの影響を受けながらも、着実に前進することができました。業績については、ロックダウンなどがあった中国を除いて堅調に推移し、円安効果もあいまって、過去最高の売上・利益を更新することができました。これは、グループ企業理念のミッションに基づき、世界各地におけるお客様ニーズの変化を的確に捉えた結果だと考えています。

シスメックスのミッションは「ヘルスケアの進化をデザインする。」です。ヘルスケアは、健康や長寿といった普遍的な願いに基づいており、社会や技術の進歩を背景に、変化を続けながら発展しています。

振り返ると、シスメックスは創業以来、こうした変化に対応、あるいは先読みすることで、提供価値を進化させ、ヘルスケアに貢献してきました。製品・サービスはあくまでも価値創出の手段と捉え、診断および検査室の進化をデザインしてきたともいえます。

日本においては国民皆保険制度導入を背景とした、1960年代の医療拡大期に、検査項目の拡充や自動化を進め、診断の標準化に貢献してきました。また、1980年代の世界的な医療高度期には、増大・複雑化する検査業務に対応するため、生産性や安全性に資する検査システムを開発してきました。これにより、検査室は検査マネジメントを行う部門へと進化し、ある医療機関においては、直接検査を行う要員が40名から4名となり、医師への情報提供など付加価値の高い業務への人員シフトが可能となりました。お客様との協働のもと、検査室のワークフローを大きく変え、検査・診断の品質・安全性・生産性を大幅に改善した事例です。2000年代以降は、世界各地の医療課題に対応し、展開地域を広げました。例えば、新興国では現地のニーズに適した製品開発や学術セミナーの開催などにより、医療の普及や質の向上に努めたほか、中国などではシスメックス製品が標準器として採用され、国全体の品質基準確立の一助ともなりました。同時に、加速度的に進展するデジタル技術などを取り込み、ネットワークソリューションの提供や、個別化医療を見据えたライフサイエンス分野の展開も進めてきました。

また、2013年から川崎重工業株式会社と合併事業で進めているメディカルロボット事業は、進化をデザインする対象を検査室から手術室に拡大した取り組みです。微細・正確なロボットアームによる手術の均てん化と生産性向上を目指した手術室全体のサポートを進めています。

こうしたヘルスケアの進化により、シスメックスは社会に対して「健康寿命の延伸」という価値を提供したいと考えています。そのために各個人に最適な医療の実現、医療費の最適化、医療アクセスの向上による医療格差解消を目指すとともに、ヘルスケアの進化に不可欠な循環型社会や、インクルーシブな社会の実現にも貢献していきます。

前長期経営目標への取り組みを通じて確たるポジションを確立

2018年に2025年度をゴールとする「長期経営目標2025」を策定しました。「特徴のある先進的なヘルスケアテスティング企業」を長期ビジョンに掲げ、既存の検体検査領域の拡充、個別化診断の進化、企業価値・風土の向上などのポジショニング目標を設定しました。その実行計画として3カ年の中期経営計画をローリング形式で推進し、直近の中期経営計画(2021年度～2023年度)では6つの重点アクションに取り組みました。

これまでの進捗を振り返ると、厳しい環境変化に直面しながら、特徴的で先進的な企業としてポジションを確立したといえます。具体的な成果として、ヘマトロジー分野では新製品を市場導入し、免疫検査分野では注目度の高いアルツハイマー病検査試薬の開発・薬事承認など、新規診断技術の創出、検査項目拡大を果たしました。ライフサイエンス分野では、がんゲノムプロファイリング検査システムの販売などが順調に進展しました。地域別では、インド、中南米、中東などで直接販売体制を強化し、新興国の成長が業績に貢献しています。中国については、ロックダウンや政府調達方針の影響を大きく受けましたが、ロックダウン生産方式での機器生産や免疫検査分野の試薬ポートフォリオ拡充などの取り組みが着実に進展しています。今後の成長ポテンシャルや市場規模を踏まえ、今後も中国を重点地域の一つとし成長に向けた事業展開を進めます。

新規事業のメディカルロボット事業では、手術支援ロボットシステムの本格導入をスタートし、2022年度末時点では泌尿器科、消化器外科、婦人科での薬事承認、保険適用を受け、累計35台を導入しました。今後は国内展開はもちろんのこと海外への展開準備を進めていきます。

社内においては、積極的な投資を通じてデジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みに注力するとともに、エンゲージメント向上を図り、グローバル人材マネジメントの高度化、ジョブ型人事制度の構築、多様な働き方を可能とする制度を整えてきました。

さらなるヘルスケアの進化に向けた価値創出

今後の課題としては、さらに急速に変化するであろうヘルスケア市場に対し、いかに対応していくかが重要です。COVID-19のパンデミックを通じて各国の医療体制の問題が浮き彫りになり、医療・検査の価値が再認識される一方、社会保障費は削減の動きが顕著になると考えられます。また、遺伝子解析と個別化医療はさらに進展し、デジタル化の加速により、その在り方が大きく変革する可能性があります。検査はデータビジネスであり、これまで蓄積してきたゲノムデータや検査データの扱い次第で、まさに生活者一人ひとりに適した医療を提供していく時代が到来するかもしれません。

こうした環境予測を踏まえ、今般、新たに「長期経営戦略2033(VA33)」を策定しました。本戦略は、人のヘルスケアイベントの流れである「ヘルスケアジャーニー」*に着目し、事業領域の拡大と提供価値の増大を目指しています。また、サステナビリティ経営をさらに強化すべく、ステークホルダーの期待・要望を超える価値提供を果たし、その評価・支持のもと、一層の価値創造を進めるというサイクルを強力に回していきます。

財務面では、30年にわたって掲げてきた「2桁成長」と「20%の営業利益率」を軸とした経営を継続します。世界の検体検査市場は1桁半ばで伸長しており、これを上回る売上成長を目指すとともに、成長目標に向かって試行錯誤することで生まれる社内のエネルギーを重視します。また、グローバルで新たな価値を生みポートフォリオを広げるためには、継続的

な投資が不可欠であり、その原資確保に向けて、営業利益率20%程度の収益性が必要だと考えています。こうした成長を実現することで、2033年度は売上高1兆円以上を目指します。
※ シスメックスが新たに提唱する概念であり、人が一生の中(ライフステージ)で、自身のヘルスケアについて経験する各種イベントと、医療機関などを含む対応のプロセスを「旅路」として捉えたもの。

新経営体制のもと、意を持って従業員自らを進化

2023年4月、新たに代表取締役社長として浅野 薫が就任しました。この人事は、長年のサクセッションプランのもと、指名委員会の審議を経て、取締役会で決議したものです。新たな経営体制では、私はグループCEOとしての役割を担い、浅野が社長として戦略の指揮をとります。浅野はこれまで研究開発や事業開発を率いて多くの変革を成し遂げており、新たな価値創造に向けたシスメックスの経営を担うにふさわしいと判断しました。「VA33」および中期経営計画は、浅野を中心に立案・策定しており、浅野を含む経営陣の意志と想いが詰まった戦略となっています。

私は常々、従業員に「意あらば通ず」という言葉を発信しています。確固たる意志をもって事にあたれば道は自ずと開くという意味で、従業員が社会に対していかに価値を生み出していかを、自ら考える会社になりたいと思っています。「VA33」においても、従業員が「意」を持って推進していくことを目指します。

シスメックスは、これからも「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、社会価値・企業価値の向上に向けて、ステークホルダーとともに変革の道を歩んでいきます。引き続き、ご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。



《長期ビジョン》より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。

インプット

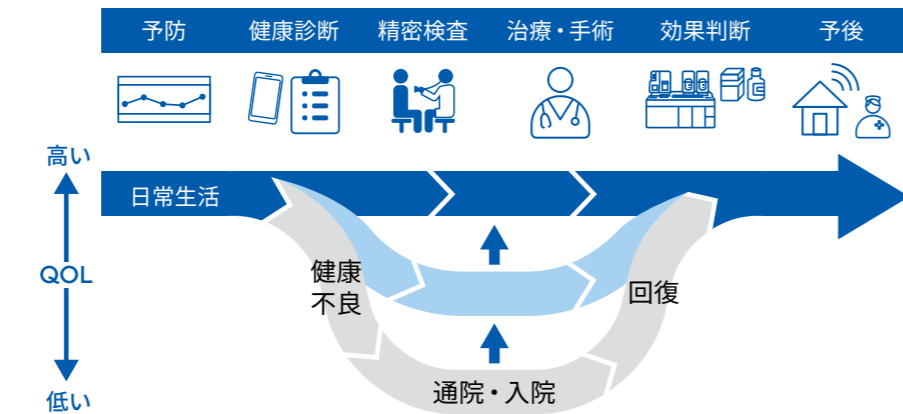
(経営資源)

- 多様な人材 (人的資本)
- 研究開発力・知的財産 (知的資本)
- 生産体制 (製造資本)
- グローバルな販売・サービス体制 (社会・関係資本)
- 安定した財務基盤 (財務資本)
- 環境資源 (自然資本)
- sysmex ブランド力 (ブランド資本)

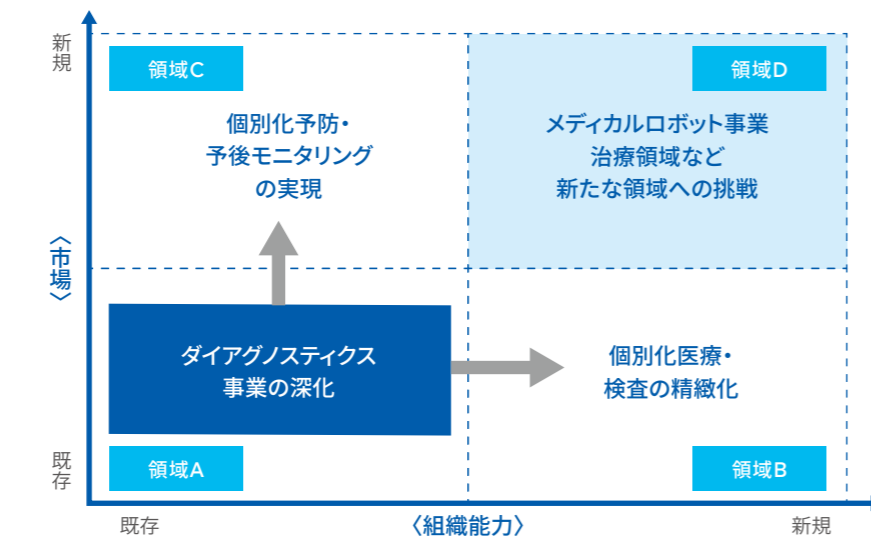
事業領域

領域の拡大
「検体検査」から「ヘルスケアジャーニー」へ

近年の医療ニーズの多様化を受け、従来の検体検査領域に加え、日常生活(良好時)から健康不良時、予後までを対象領域とし、「ヘルスケアジャーニー」の各ステージで価値を提供していきます。
ヘルスケアジャーニー ≫ P23



「既存領域の成長」+「新規領域への挑戦」



価値創造戦略/アウトプット

(マテリアリティ) ≫ P25 (基本戦略) ≫ P27 / モニタリング指標

- 健康社会への新たな価値創出**
 - イノベーションを通じた医療課題解決
 - 医療アクセスの向上
- 責任ある製品・サービス・ソリューションの提供**
 - 品質と信頼の追求
 - サプライチェーンマネジメントの強化
- 環境への負荷低減**
 - 製品ライフサイクルにおける資源循環
 - 事業活動における環境負荷低減
- 魅力ある職場の実現**
 - エンゲージメントの向上
 - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進
 - 人材の育成
 - 健康増進と労働安全の推進
- ガバナンスの強化**
 - コーポレートガバナンスの強化
 - コンプライアンスの遵守
 - リスクマネジメントの強化
 - 人権の尊重

事業および技術
検査の価値向上、個別化医療・予防の展開、治療など新規領域への挑戦

- 機器・試薬・ソリューション価値の拡充
 - 顧客満足度指数
 - 製品ラインアップ/事業ポートフォリオ指標
 - 顧客アクセス指標

エコソーシャル
循環型社会に順応したビジネスモデルの構築

- 医療機関と協創したバリューチェーン進化
 - プロダクトロス指標
 - 資源循環指標

人的資本
経営戦略に合致した、世界中のタレントの獲得・育成

- ヘルスケアの進化に資する人材ポートフォリオ構築
 - 付加価値生産性指標
 - エンゲージメント指標
 - DE&I指標

コーポレートマネジメント
自律的かつ機動的な組織マネジメント体制構築

- レジリエントなグローバル経営体制
 - 取締役会の実効性評価
 - 投資効率指標
 - ブランド浸透指標
 - 財務指標(売上高、営業利益、ROE)

アウトカム

(提供価値) ≫ P29

世界中の人々の健康寿命延伸

- 各個人に最適な医療の実現
- 医療費の最適化への貢献
- 医療アクセスの向上による医療格差解消への貢献

循環型社会の実現

- 気候変動への対応
- 水資源への対策
- 生物多様性への貢献
- 資源循環型バリューチェーンの確立

社会価値の創出

- ステークホルダーとの対話を通じた企業価値の向上
- ウェルビーイングの実現による従業員の幸福度の向上
- 社会課題解決に寄与する人材の創出
- 株主・投資家や従業員などのステークホルダーへの価値還元

長期経営戦略

長期経営戦略2033「VA33」(Value Advance 2033)

《長期ビジョン》「より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。」

- 《戦略のポイント》
- 1 対象領域を、検体検査からヘルスケアジャーニーへ拡大
 - 2 自社の強みを生かした事業成長の加速
 - 3 人的資本強化と環境負荷低減へのチャレンジ

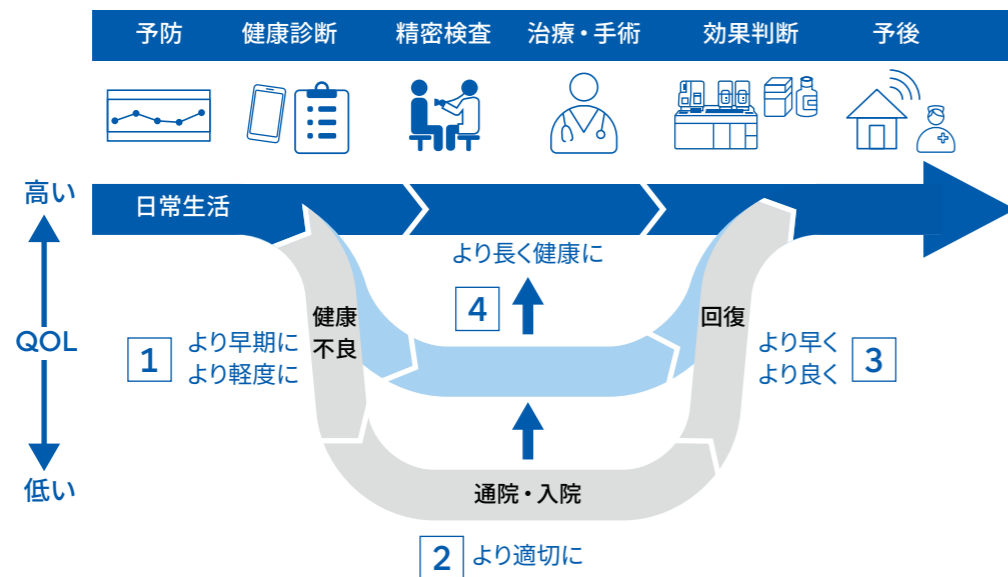
Value

- ・従業員一人ひとりが常に「社会価値」と「企業価値」の向上に真摯に向き合う
- ・検査・診断にイノベーションを起こし、個別化医療や新たな治療領域においてもユニークな「価値」を創出

Advance

- ・ミッションであるヘルスケアの「進化」を推進
- ・さらなる「進化」への覚悟

ヘルスケアジャーニー



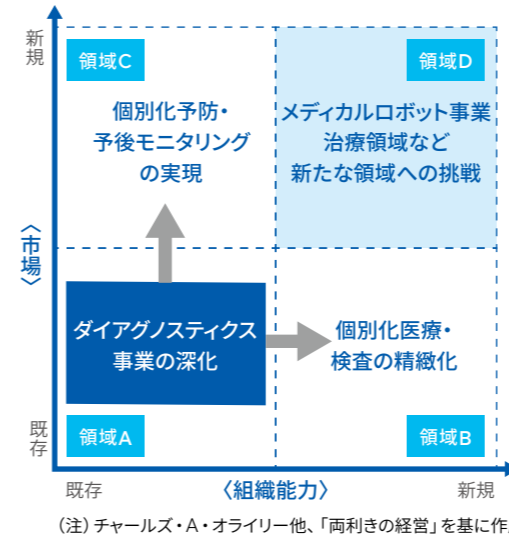
長期経営戦略策定の背景

シスメックスでは、10年の時間軸で将来のありたい姿から長期経営戦略を描き、外部・内部環境の変化に応じて適宜改定を行っています。2018年に策定した前長期経営戦略は、「特徴のある先進的なヘルスケアテスティング企業」を長期ビジョンに掲げ、既存事業の拡大とともに個別化医療やプライマリケアへの貢献を目指してきました。その結果、市場シェアNo. 1のヘマトロジーや尿、血液凝固検査分野ではポジションをより強固なものとし、免疫検査分野でも着実な事業展開を進めることができました。また、個別化医療においてはアルツハイマー病検査試薬を、プライマリケアでは世界初となる薬剤感受性の迅速判定システムを開発・販売、さらにはメディカルロボット事業を事業化するなど、新規事業の布石を打ってきました。

戦略策定の背景となる10年後の環境展望としては、世界的な高齢化社会の中で、社会保障費の適正化と医療機能の分散が進み、予防やセルフメディケーションが重要になる一方、医療格差や医療アクセスの問題は依然継続していると想定しています。また、遺伝子解析、超高感度測定、小型化などの技術革新と医療への実装が進展するとともに、個別化医療へのニーズは増加、再生細胞医療や遺伝子治療など新たな治療法が実用化されるとみえています。加えて、AIの普及をはじめ医療分野のDXは加速し、ロボット技術の実装・用途拡大も進展する予測です。内部資源としては、これまで培ってきたグローバルな事業基盤、広範な技術、アカデミアとのネットワークや産業界との連携などが、今後の価値創造に有効であると考えています。

事業領域

■イノベーションストリーム



領域	ヘルスケアジャーニーでの主な領域
領域A	ダイアグノスティクス事業の深化 ・シェア拡大、圧倒的競争優位性確立 ・検査項目拡大、グローバル展開
領域B	個別化医療・検査の精緻化 ・ユニークなライフサイエンス分野の展開 ・検査・診断方法の新規開発
領域C	個別化予防・予後モニタリングの実現 ・新たな検査の開発、普及 ・データを活用した新たなヘルスケアサポートの実現
領域D	新たな領域への挑戦 ・メディカルロボット事業の拡大 ・再生細胞医療などへの進出

基本戦略と目標

事業および技術 エコソーシャル 人的資本 コーポレートマネジメント	財務目標	成長性	売上高	1兆円以上
	非財務目標	収益性	営業利益率	20%以上
		プロダクトロスのゼロ化	未使用自社製品の廃棄率	0.1%未満
		環境配慮材料への代替	容器と包装材への利用率	100%

新長期経営戦略の概要

こうした前提を踏まえ、「長期経営戦略2033 (VA33)」では、提供価値や実現したい社会を見据え、長期ビジョンを「より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。」と策定しました。ヘルスケアジャーニーとは、人の一生におけるヘルスケアイベントと対応プロセスを旅路と捉えたものです。世界中の、一人ひとりのヘルスケアジャーニーをより良いものにしていくためには、各個人に最適な医療の実現や、医療費の最適化、医療アクセスの向上が不可欠です。シスメックスの対象領域としても、従来の検査室で行われていた検体検査に加え、未病・予防、予後モニタリング、そして治療も加えたヘルスケアジャーニーとして捉えていきます。

一方、事業領域については、組織能力と市場の2軸で整理したイノベーションストリームのフレームを用い、上図のように設計しています。まず、領域Aでは確たるポジションを確立しているダイアグノスティクス事業をさらに深化させ

ます。それを軸として、領域Bでは新たな技術を獲得し、ライフサイエンス分野など個別化医療の実現を目指します。領域Cではこれまでの技術などをベースにしながらも、個別化予防や予後モニタリングなど新規市場に進出していきます。そして、領域Dは新領域への挑戦として、手術支援ロボットシステムや再生細胞医療などの治療領域に取り組みます。戦略設計にあたっては、これまで以上にサステナビリティの観点を重視し、長期ビジョンのもとに優先するSDGs項目とマテリアリティを再設定。ここから、事業・技術、エコソーシャル、人的資本、コーポレートマネジメントで構成される基本戦略を描いています。

こうした戦略を遂行していくことで、売上高1兆円以上、営業利益20%以上の成長を目指すとともに、資源循環型社会の実現に向けた非財務目標達成を目指し、企業価値・社会価値の向上を実現していきます。

▶マテリアリティ P25、▶基本戦略 P27

マテリアリティ (優先する重要課題)

シスメックスのマテリアリティ

優先的に取り組むべきSDGs	マテリアリティ	
	取り組み	テーマ
3 すべての人に健康と福祉を	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションを通じた医療課題解決 医療アクセスの向上 	健康社会への新たな価値創出 ^{※2}
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 品質と信頼の追求 サプライチェーンマネジメントの強化 	責任ある製品・サービス・ソリューションの提供 ^{※2}
12 つくる責任 つかう責任		
17 パートナリシップで目標を達成しよう		
5 ジェンダー平等を実現しよう	<ul style="list-style-type: none"> エンゲージメントの向上^{※1} ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進^{※2} 	魅力ある職場の実現
8 働きがいも経済成長も		
13 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> 製品ライフサイクルにおける資源循環^{※2} 事業活動における環境負荷低減^{※2} 	環境への負荷低減 ^{※2}
(ガバナンス)	<ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント 人権の尊重^{※1} 	ガバナンスの強化

※1 新規追加したマテリアリティ項目
 ※2 従来マテリアリティから整理・統合・表記変更を行った項目

▶サステナビリティ目標の進捗状況 P63

マテリアリティの位置付けと特定プロセス

シスメックスは、持続可能な社会の実現とシスメックスの持続的な成長に向けて、マテリアリティ(優先的に取り組むべき課題)を特定しており、定期的に内容の検証を行っています。

従来のマテリアリティは、ステークホルダーとシスメックスの重要度を2軸で分析したもので、2017年に初めて特定しました。その進捗の可視化や実効性の向上に向け、中期経営計画に沿った具体的な目標およびKPIを「非財務目標」(2021年度からは「サステナビリティ目標」へ名称変更)として設定し、責任部門の実行計画や活動へ展開してきました。なお、その内容は、2021年に中期経営計画の策定に合わせて見直しを行っています。

このたび、新たな長期ビジョンおよび戦略を策定するにあたり、事業領域の拡大や、今後の多様化・複雑化する社会環境を見据え、長期経営戦略および中期経営計画とマテリアリティがすべて一貫した戦略設計を行い、サステナビリティ経営を加速していくことが重要であると判断しました。社内外の理解促進にも資することから、実行力向上と対話の活性化にもつながると考えています。

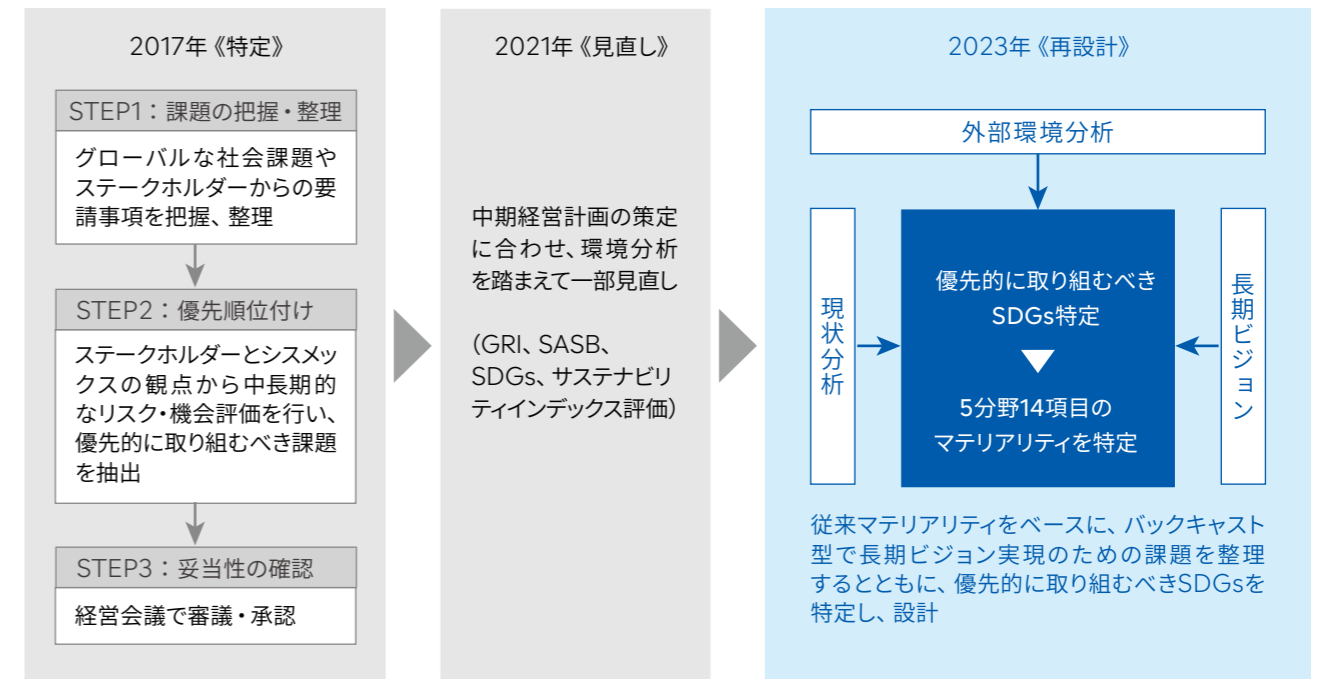
マテリアリティ再特定のアプローチとして、従来のマテリアリティをベースとしながら、バックキャスト型の設計を行いました。まずは、長期経営戦略2033 (VA33) と合わせて、2033年までの社会・地球環境や業界動向を分析し、長期ビジョン実現のための課題として整理するとともに、社会価値と企業価値におけるインパクトの観点から、シスメックスが優先的に取り組むべきSDGsを特定。この優先的に取り組むべきSDGsのもと5分野14項目のマテリアリティを特定しました。

また、新たなマテリアリティをVA33における基本戦略およびそのモニタリング指標設定の基点としました。さらに、基本戦略と中期経営計画、サステナビリティ目標を連動させることで、シスメックスが目指す価値創造の姿を構築しました。

なお、各戦略の執行状況およびサステナビリティ目標は、半期ごとに、取締役会や経営会議などにおいて各部門から報告し、取締役が進捗を確認しています。

戦略の進捗や環境変化に合わせ、シスメックスは今後も定期的にマテリアリティの検証、見直しを行いながら、価値を提供し続けます。

マテリアリティ特定の流れ



優先的に取り組むべきSDGs



基本戦略

事業および技術



イノベーションストリームの4領域ごとに方針を設定しています。

ダイアグノスティクス事業の深化 領域A

収益源の成長ドライバーと位置付け、グローバルな事業基盤や技術資産の活用により、既存検査の性能向上や新たな診断指標につながる検査を拡充することで、検査の価値向上を図ります。分野別では、グローバルシェアNo. 1のヘマトロジー分野において潜在市場拡大と競争優位の確立を図るほか、免疫検査分野ではユニークな試薬ポートフォリオ拡充を軸としたグローバルプレゼンスの向上、血液凝固検査分野では、アライアンスの活用や独自のソリューションによりグローバル展開を進めます。また、対象疾患の拡大と検査分野を横断する診断への価値提供を推進します。これらの取り組みの展開にあたり、新興国市場など各国・地域の医療ニーズに対応した製品やユニークな検査項目の開発、検査・診断データのデータベース化および解析による新たな価値の提供に注力します。

個別化医療・検査の精緻化 領域B

がんやアルツハイマー病など社会的な課題である疾患に対し、新たな診断価値の提供を目指します。細胞・タンパク・遺伝子を測定するリキッドバイオプシー技術の実用化に加え、遺伝子検査のポートフォリオ拡大、遺伝子情報を活用した診断ソリューションの開発など、新たな技術と既存技術の融合により個別化医療・検査の精緻化を行います。

個別化予防・予後モニタリングの実現 領域C

医療の分散化やセルフメディケーションニーズの高まりに対応すべく、検査の場所、対象を拡大したプライマリケア製品の開発、未病、予防を対象とする新たな検査の実現、個人の時系列検査データの蓄積、解析による再発、予兆検出プログラムの開発などに取り組みます。

メディカルロボット事業、治療領域など新たな領域への挑戦 領域D

メディカルロボット事業を軸として手術ソリューションの提供を目指す外科治療領域、検体検査で培った品質管理技術やロボット技術を駆使した再生細胞医療領域など、新たな領域の継続的な探索を進めます。



《モニタリング指標※1》

顧客満足度指数

- NPS®※2 (Net Promoter Score)
- VOC (Voice of Customer) 収集数
- カスタマーサポートセンター対応件数

製品ラインアップ／事業ポートフォリオ指標

- 特許保有件数・出願件数
- 学会発表・論文掲載数、アカデミアとの共同研究数

ダイアグノスティクス事業：

- 各分野の市場シェア
- ユニーク検査項目開発数
- 売上高・営業利益・営業利益率

個別化医療・予防・予後：

- プライマリケア製品導入数
- がんゲノム医療解析実施件数

新規事業：

- 手術支援ロボットシステムの適応診療科数、導入地域、症例数
- 再生医療等製品の承認数
- 売上高・営業利益・営業利益率

医療アクセス指標

- ヘマトロジー検査数
- 展開国数
- 直接販売拠点数
- 新興国・開発途上国売上高・売上高比率

※1 長期経営戦略において長期視点でモニタリングしていく指標として設定していますが、環境変化・戦略の進捗とともに随時見直していきます。

※2 NPS®はBain&Company、Fred Reichheld、SatmetrixSystemsの登録商標です。

エコソーシャル



国際社会の一員として循環型社会に順応したバリューチェーン改革を行うことにより、環境・社会課題解決と事業拡大を両立するビジネスモデルを構築していきます。事業活動におけるカーボンニュートラルや水資源保全などに加え、バリューチェーン全体を資源循環型へ移行していきます。機器、試薬における環境配慮型設計の拡大に加え、脱動物由来原料や環境配慮材料の採用や代替加速、リユース、リサイクルの仕組みの確立、未使用自社製品の廃棄のゼロ化などに取り組みます。

さらに、保有する技術資産の活用により、医療経済性や医療アクセスの向上に貢献する新規ソリューション探索を図るとともに、サステナビリティ活動に関連する外部との協働を加速し、社会からの信頼獲得を目指します。

人的資本



企業価値向上に向けた最大の資本は人材です。人材の獲得、育成、配置へ積極的に投資を進め、ヘルスケアの進化を実現する人材を創出します。具体的には、最適な人材ポートフォリオを構築するための高度専門人材の獲得、育成を進めるほか、従業員一人ひとりが働きがいを持ち、高いエンゲージメントを実現するため、多様な人材の個性を尊重するとともに、個々のウェルビーイングを向上する職場環境の構築や成長機会の提供を行います。また、最高のチームワークを発揮するため、企業風土の進化とグループ横断で既存・新規事業をけん引する豊富なリーダーの輩出に注力します。これらの取り組みについては、DXによるグローバル横断の人的資本データベースを構築し、適切にモニタリングを行います。▶▶人的資本戦略P53

コーポレートマネジメント



イノベーションを促し、戦略を推進するため、自律的かつ機動的な組織マネジメント体制を構築していきます。例えば、グループ組織力を最大化させる組織設計や、機能配置、権限体系、意思決定の仕組みの構築や、アライアンスやオープンイノベーションなどの外部リソース活用体制の強化を進めます。

また、デジタル技術を活用し、経営基盤の強化および経営品質の向上に向け、グループガバナンスや統括機能の高度化、経営管理機能・オペレーションの効率化、リスクマネジメント体制の強化に努めます。

そして、先進的で魅力的な企業であり続けるため、ステークホルダーと透明性と質の高い双方向のコミュニケーションを進め、ブランド力を強化していきます。

《モニタリング指標※1》

プロダクトロス指標

- プロダクトロスのゼロ化

資源循環指標

- リサイクル・環境配慮材料への完全代替
- 包装用資材削減率
- 再生エネルギー比率

上記以外の重要サステナビリティ目標

- GHG排出量削減率
- 水消費量削減率
- CSR調査回答率

《モニタリング指標※1》

人的生産性指標

- 付加価値生産性
- 人的資本投資額
- エンゲージメントスコア
- 離職率
- 女性マネジメント比率
- 障がい者雇用率

《モニタリング指標※1》

実効性評価

- 取締役会実効性評価

ブランド浸透指標

- 認知度調査など

財務指標

- 売上高(伸長率)
- 収益性(営業利益・率)
- 資本効率性(ROE)

長期的な提供価値

① 世界中の人々の健康寿命延伸

- 各個人に最適な医療の実現
- 医療費の最適化への貢献
- 医療アクセスの向上による医療格差解消への貢献

提供する価値
(インパクト測定指標)

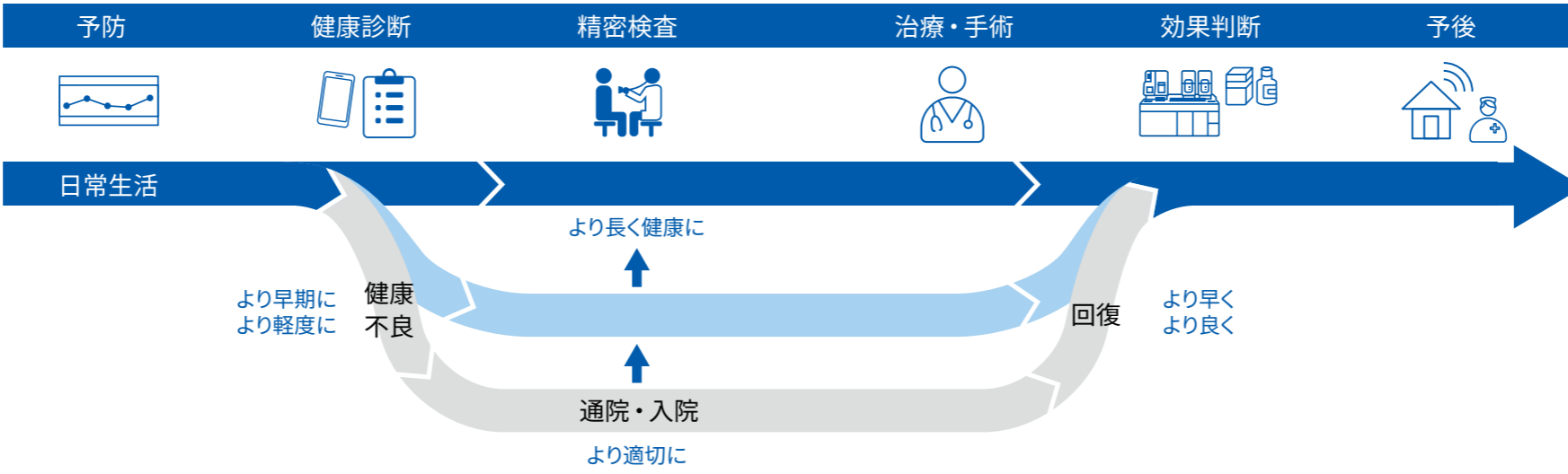
医療費の最適化 (医療経済性など) 健康寿命の延伸 (健康度調整平均寿命)

<p>医療アクセスの向上 (検査受診率、検査数、重症化率、医療情報連携ネットワークなど)</p>	<p>医療の最適化 (入院日数、通院期間、患者負担、治療回数など)</p>	<p>医療の高度化 (臨床評価指標、論文数、医療ロボット導入施設数など)</p>	<p>QOLの向上 (早期発見率、再発率、寛解率など)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の早期発見と予防 ・ヘルスケアデータのポータブル化と活用 ・パンデミックへの統計学的アプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別化診断の拡充 (治療薬の選択) ・検査室の品質、生産性向上 ・患者さんの負担軽減 (非侵襲、低侵襲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別化医療の拡充 (再生細胞医療) ・外科領域のイノベーション (ロボット支援手術、遠隔) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク診断、再発予防 ・訪問看護/介護、診療、介護の充実と連携 ・予後モニタリング
<p>先進国：★★★★ 新興国：★★★★</p>	<p>先進国：★★★★ 新興国：★★</p>	<p>先進国：★★★★ 新興国：★</p>	<p>先進国：★★★★ 新興国：★★</p>

重視する医療ニーズ

★：今後5年におけるニーズの強さ

ヘルスケアジャーニー



より良いヘルスケアジャーニーの実現に向けシスメックスは、患者さんや医療機関などのニーズをいち早くみ取り、それに応えることで、世界中の人々の健康寿命延伸に貢献することを目指しています。

例えば、シスメックスは患者さんにとって最適な治療薬の選択を可能にする検査や、負担を軽減する検査の開発とその実用化に取り組んでいます。さらに、人々のQOL向上に向けて、予防や疾患の早期発見、予後モニタリングにも寄与する製品の開発を進めています。このような医療の高度化・最適化により個人に最適な医療を実現するとともに、早期治療や適切な投薬による医療費の最適化も目指しています。そして、新興国・発展途上国では、最適な製品・サービスのみならず学術情報などもお届けすることで、医療アクセスの向上による医療格差の解消に寄与しています。

また、社会と企業の持続的な成長に資する循環型社会の実現に加え、各ステークホルダーへの価値還元など社会価値創出にも取り組みます。これらは、国際社会の一員としての企業活動の土台であり、「世界中の人々の健康寿命延伸」の実現に向けて取り組む中で生み出される価値です。

シスメックスは、さらなる価値を提供し続けることで、社会課題の解決を通じた持続的な社会の実現に貢献します。

② 循環型社会の実現

- 気候変動への対応、水資源への対策、生物多様性への貢献
 - ・自社事業活動を通じた直接的な環境負荷低減
 - ・業界協働、サプライチェーン全体での先進事例普及
- 資源循環型バリューチェーン確立
 - ・環境配慮型材料・設計の一般化
 - ・資源廃棄ゼロ化への進展

③ 社会価値の創出

- ステークホルダーとの対話を通じた企業価値の向上
 - ・ヘルスケア業界におけるイノベーション創出
- ウェルビーイングの実現による従業員の幸福度の向上
 - ・従業員のワークライフバランスの実現、自己実現の創出
- 社会課題解決に寄与する人材の創出
 - ・魅力的な人材が活躍する労働市場の活性化
- 株主・投資家や従業員などステークホルダーへの価値還元

現場の声

世界中の人々により良いヘルスケアジャーニーを届けるシスメックスの従業員の取り組みを紹介します。

中南米地域の医療の質向上に向けた活動



Sysmex Colombia SAS
Commercial/ Sales
Senior Distributors Manager-
Latin America
Nancy Zamora Bello

私の担当地域である中央アメリカ・カリブ海・アンデス地方では、多くの病院は、予算不足を背景に自動化された検査システムを保有できず、検査技師がマニュアルで検査を行っています。その結果、検査結果のばらつきが発生するほか、検査時間もかかり、診断や治療の遅れ、さらには重症化につながる可能性があります。

シスメックスは、自動検査システムにより、標準化された信頼性の高い検査結果を迅速に提供することができます。これにより、診断および治療の早期化や治療費の削減、入院期間の短縮など医療の質向上に寄与するだけでなく、患者さんの負担軽減にも貢献します。

しかし、このような国々で予算を確保し検査システムを導入していただくためには、施設の責任者だけでなく、各国の政府への働きかけが重要です。私は、ヘマトロジーや尿検査、感染症のKOLの方々とネットワークを構築し、最先端の自動化システムの導入による検査の標準化がもたらす効果について、積極的に啓発活動を行っています。これらの活動により、グアテマラ初の全自動尿検査システムの導入を行うなど、医療インフラの底上げに取り組んでいます。

中南米地域の人々の健康をより良くし生活の質を向上するため、今後も引き続き活動を行っていきます。

手術支援ロボットシステムを中心とした外科領域への挑戦



MR(メディカルロボット)事業本部
係長
秦 裕樹

2020年に販売開始された日本発の手術支援ロボットシステムは、微細かつ正確な動きによる手術サポートだけでなく、手術室全体の効率化や、医療の進化に貢献することを目的に開発されました。

システム導入にあたっては、対象地域の医療ニーズに合わせた、手術支援ロボットの活用を考えるにあたり、医師や病院関係者とのコミュニケーションを大切にしています。システムを設置するだけでなく、中長期的な視点で医療の在り方を一緒に見据えながら運用することで、より良い医療提供体制の確立につながると考えるからです。

また、シスメックスがこれまで培ってきた検査・診断に関するノウハウを外科領域へ応用することにより、幅広いソリューションの提供が可能になります。例えば、手術前の検査から、腫瘍の良性・悪性などを調べる手術中の検査、経過をモニタリングする手術後の検査までサポートすることで、医療機関の負担軽減だけでなく患者さんへの安心提供にもつながります。

そして、今後の医療の発展には欠かせない遠隔医療の実現においても、手術支援ロボットシステムは高い潜在能力を有しています。例えば、離れた病院に設置された手術支援ロボットシステムを、ネットワークでつなぐことにより、医師と患者さんが離れていても手術が行えるなど、時間や場所による制約を軽減し、良質かつ適切な医療を効率的にお届けできるようになります。外科領域はシスメックスにとって新たな事業領域ですが、検体検査領域と同様に、新たな価値を提供できるよう取り組んでいきます。

予防	健康診断	精密検査	治療・手術	効果判断	予後
----	------	------	-------	------	----

世界初、薬剤耐性(AMR)に対する迅速薬剤感受性検査システムの開発



Sysmex Astrego AB
Research and Development
Lead researcher
Lovisa Söderberg

現代における感染症治療は、抗菌薬の使用が基本とされていますが、適切な薬剤が投与されない場合、体内で有効な効果が得られず薬剤耐性菌が増殖し、重症化や死に至ることがあります。AMRのまん延は、新しい抗菌薬の開発スピードをはるかに上回ります。特に治療の選択肢が限られている国や地域においては深刻な問題となっており、これに対抗するためには、迅速検査により、抗菌薬を必要かつ有効な患者さんに適切に処方する必要があります。

開発当初は乗り越えなければならないさまざまな課題があり、販売に向け技術を製品に仕立て上げるための開発は大変な道のりでした。医療現場で使用いただくためには、正確な検査結果を提供する必要がありますが、そのための品質基準の実現など、一つひとつ製品化に向け改良を重ね、より使いやすい検査システムを作り上げました。

そのような中、開発の初期段階から私たちの大きな原動力となったのは、市場からのフィードバックです。このフィードバックにより、私たちの技術がAMRとの戦いに必ず変化をもたらすという自信を与えてくれました。

2023年6月、私たちは独自技術を用いた尿路感染症に対応した迅速薬剤感受性検査システムを販売開始しました。今後は対象疾患を拡大し、細菌感染症の治療方法に影響を与え、世界的な医療課題の解決に引き続き取り組んでいきます。

デジタル医療への取り組み



R&D Center Asia Pacific
Research Executive
João Nunes

AI技術により急速なデジタル変革が進んでいますが、医療分野においても、医師の診断をサポートし、患者さんの健康に大きく寄与する可能性を秘めています。AIソリューションは、大量のデータを実用的な臨床アプリケーションに変換することで、疾患の早期発見や健康管理、そして費用面を含む効率性の高い医療ワークフローへの活用など、期待が高まっています。

私は、2022年4月に新たに設立されたシンガポールの研究開発拠点で、医療分野におけるAI開発を行っています。医療分野における潜在ニーズに対応するため、クラウドインフラ、ビッグデータなどを活用した新たなサービスの開発に取り組んでいます。しかし、絶えず変化する環境の中で、規制やデータに対するコンプライアンスを遵守しながらイノベーションを生み出すためには、さらなる知識の習得が必要だと感じています。そのような中、携わっている共同開発プロジェクトにおいてアジア・パシフィック地域のKOLや長年のお客様からシスメックスの取り組みについて評価をいただく機会があり、私自身にとって大変有意義な経験となりました。同時にさまざまな専門知識を習得することもできました。

今後は、グループ全体で連携しながら、長期的なデータを活用した個別化医療のモデルの開発に取り組んでいきたいと思っています。それにより、患者さん一人ひとりに対し最適な治療方針やタイミングを特定するなど、現在の治療を進化させられるのではないかと考えています。医療は保守的な分野ですが、世界中で起こっている大きなDXを活用し、社会に貢献していきます。